

■ Quantifi 社が CDO プライシングのための新しい相関回収率モデルを発表

Quantifi 社は、確率的相関回収率を使用して、CDO をプライシングするモデルを世界で初めて製品の中で提供することを発表。

2008年9月9日

グローバルクレジット市場への分析やリスク管理ソリューションの提供で世界をリードする Quantifi (クオンティファイ) 社は、クレジットデリバティブ評価用ソフトウェアの機能を拡張し、伝統的な1ファクターのガウシアン・コピュラモデルより、広範囲なトランシェ価格にカリブレーションできる新しい相関回収率モデルを加えた。

最近の市場の混乱は、合成債務担保証券のプライシングとリスク管理にとっての重大な挑戦となっている。ワイドニングし、より変動の激しいスプレッドは、単純なガウシアン・コピュラモデルの失敗を招き、市場参加者が正確にプライシングしたりヘッジできない状態にある。

こうした市場のニーズに応じて、クオンティファイ社はデフォルト発生時に、より現実的な取り扱いを組み入れられるように1ファクターのガウシアン・コピュラモデルを拡張したクオンティファイ相関回収率モデル(QCR)と呼ばれる CDO をプライシングする新たなモデルを開発した。

QCR モデルは、市場が極度に混乱した期間でさえ、市場参加者がカリブレーションやプライシングすることを可能にする。さらに、同モデルはシニアトランシェをより正確にプライシングする一方、「ネガティブ・デルタ」の問題の解決を含む改善された感応度を提供する。

「相関回収率モデルは、銀行や他の主要な市場参加者が大きな関心を寄せている新しいクラスの CDO モデルである。クオンティファイ社は、顧客がクレジットデリバティブのプライシングとリスク管理における新規の開発の最前線の恩恵を受けることができるように、革新的で高度に最適化され、強固なモデルを市場に最初に提供した。」とクオンティファイ社の創立者で CEO であるローハン・ダグラスは語っている。さらに「急速な市場革新と変化の時代の中で、顧客ニーズに応え、市場にいち早く新機能を提供することは、当社の顧客にとって、より一層重要である。」とも述べている。

クオンティファイ相関回収率モデルは、Quantifi RISK、Quantifi ツールキット、Quantifi XL の9.1で利用可能である。